大聖院：巖島図屏風

巖島図屏風は、北西から見た宮島を題材とした地図のような非常に細密な絵画作品で、現在フェリーで宮島を訪れる際に楽しめる風景と似た眺めが描かれています。幅約 5m、高さ約 1.7m のこの作品には、巖島神社、大聖院、弥山に加え、海岸沿いの家並みや日常生活を送る地元の人々も描かれています。この作品は 1800 年代半ばのものと考えられており、政策の犠牲となった 1868 年まで大聖院に収蔵されていました。

明治天皇（1852～1912）の新政府は、仏教よりも日本固有の神道を支持する政策を開始し、それにより全国の寺院には資金の削減と財産の没収がもたらされました。大聖院を含む多くの寺院は、存続のために残された所有物の多くを売却せざるを得ませんでした。巖島図屏風も個人の買い手に売られた品の一つであり、その行方は長い間不明となっていました。しかし 2000 年代に入ってから、所有者がこの屏風を大聖院へと寄贈し、元の場所へと帰ってきました。現在は、祭りやその他のイベントの際に時々一般公開されています。